



## 蝶のいる楽園

——フィリピン・マリンドゥケで調査しながら——

アジア経済研究所では海外派遣制度が整備されており、職員自身が研究計画を立案し、行き先の国・地域、研究機関、カウンターパートを発掘します。ヒト・モノ・カネ・情報のグローバル化がいくら進展しようとも、帰属社会の日本を物理的に一旦離れ、海外で、特に途上国で一定期間、生活することは依然として重要な意義を持っています。さまざまな刺激や発見に満ちています。今回の写真は、赴任中のフィリピンの中から筆者の調査地に選定したマリンドゥケ州ボアク島の農村部で撮影したものです。

この地域は「Butterfly Heaven」というあだ名がついていて、同国の他の農村部とちょっと違うのは、蝶の繁殖・販売・輸出がこの地域の有名な産業となっ

ていることです。1枚目の写真は、この地域で採れた蝶の成虫を丁寧に標本化し、商品化したものです。綺麗ですが高価で迫力もあります。

2枚目は、現地語でチャンゲ (tiangge) と呼ばれる local bazaar です。日本はおろか首都マニラとも異なり、コンビニやスーパーマーケットはほとんどありません。ですから、食料品から食器、工具などの雑貨に至るまで、生活に必要な品物を週末に開かれるこのチャンゲで人びとは買い求めています。農村内での商業の小さな勢いを感じる1コマです。

(おかべ まさよし / アジア経済研究所 在マニラ海外派遣員)